

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—105509

⑪ Int. Cl.³
G 01 B 21/06
7/04識別記号
1 0 1庁内整理番号
7119—2F
7355—2F

⑬ 公開 昭和59年(1984)6月18日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 5 頁)

⑭ 溶接ワイヤの使用量検知装置

14号三菱電機株式会社名古屋製作所内

⑮ 特 願 昭57—216226

⑯ 出 願 人 三菱電機株式会社

⑰ 出 願 昭57(1982)12月9日

東京都千代田区丸の内2丁目2番3号

⑱ 発 明 者 平松正毅

名古屋市東区矢田南五丁目1番

⑲ 代 理 人 弁理士 大岩増雄 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

溶接ワイヤの使用量検知装置

2. 特許請求の範囲

(1) 巻枠に巻かれた溶接ワイヤを連続的に巻きもどしながら溶接を行う自動溶接機において、上記巻枠の回転数に応じた数のパルス信号を発生するパルス発生手段と、上記ワイヤの巻きもどし速度の逆数に比例して設定時間が変化する可変時間設定手段と、上記パルス発生手段からのパルス信号の周期と上記可変時間設定手段の設定時間とを設定する時間比較手段とを有し、上記パルス信号の周期が上記設定時間以下になつたときに警報手段を作動させるようにしたことを特徴とする溶接ワイヤの使用量検知装置。

3. 発明の詳細な説明

この発明は溶接ワイヤの使用量検知装置、特に巻枠に巻かれた溶接ワイヤの使用量を検知するものに関する。

一般に、自動溶接機に使用されている溶接ワイ

ヤは、第1図a、bに示すように、円形の巻枠10に巻かれている。溶接時には、その巻枠10に巻かれた溶接ワイヤ12を連続的に繰り出す。溶接ワイヤ12は巻枠10の外側から該巻枠10を回転させながら引き出す。溶接ワイヤ12が、第1図cに示すように残り少なくなつたならば、そのワイヤ12がなくなる前に新しい巻枠10と交換してワイヤ12を補充しなければならない。もし、自動溶接を行つていて途中で溶接ワイヤがなくなると、溶接が途中で中断して溶接部に継目が生じたり、溶接欠陥が発生したりする。

しかしながら、従来においては、巻枠10の溶接ワイヤ12の残量は、溶接作業者の目視によつて確認するしかなく、このため、残量の見込みを誤まつたり、あるいは残量の確認を忘れて溶接を開始し、途中で溶接ワイヤ12がなくなつて止むなく溶接を中断するということが、従来においてはしばしばあつた。

この発明は前述した従来の課題に鑑みてなされたもので、その目的は、従来はもつばら溶接作業

者の勘や注意力に依存してした溶接ワイヤの残量確認を、確実かつ正確に行うことができるようにし、これにより溶接途中でワイヤがなくなつて溶接を止むなく中断するといったようなことをなくすることができるようにした溶接ワイヤの使用量検知装置を提供することにある。

上記の目的を達成するために、この発明は、巻棒に巻かれた溶接ワイヤを連続的に巻きもどしながら溶接を行う自動溶接機において、上記巻棒の回転数に応じた数のパルス信号を発生するパルス発生手段と、上記ワイヤの巻きもどし速度の逆数に比例して設定時間が変化する可変時間設定手段と、上記パルス発生手段からのパルス信号の周期と上記可変時間設定手段の設定時間とを比較する時間比較手段とを有し、上記パルス信号の周期が上記設定時間以下となつたときに警報手段を作動させるようにしたことを特徴とする。

以下、この発明の好適な実施例を図面に基づいて説明する。

先ず、第2図はこの発明の基本原理を説明する

(3)

転速度が遅くなる。このことは、逆に巻棒10の回転速度を測定することにより溶接ワイヤ12の使用量を知ることができるということを意味する。もつとも、実際には、溶接機の使用中に溶接ワイヤ12が常に一定速で引き出されるとは限らない。しかし、任意の速度 V_n であつても、引出し位置 D_1 と D_2 における回転速度は常にその直径比 (D_1/D_2) 分だけ異なるから、引出し速度の変動分でもつて上記回転速度(回転数)の測定値を補正すれば、何ら問題はない。

第3図はこの発明による装置の実施例を示す。同図に示す装置は、溶接ワイヤ12を巻いた巻棒10、溶接ワイヤを引出す駆動ローラ14、このローラ14を回転させる電動機16、電動機16の制御回路18、電動機16の速度設定器20、巻棒10の回転を検知するための突起物(ストライカ)22、この突起物22によつて動作する検知器24、この検出器24の検出信号によつて動作するパルス発生器26、このパルス発生器26からのパルス信号と同期して各パルス信号毎に計

(5)

ための図である。

第2図において、 V_1 は溶接ワイヤの引出し速度(mm/min)、 D_1 は使用開始時の溶接ワイヤ引出し位置(mm)、 D_2 は使用終了時の溶接ワイヤ引出し位置(mm)、 N は巻棒の回転数(rpm)をそれぞれ示す。

これら V_1 、 D_1 、 D_2 の間の関係式は次のようになる。

$$V_1 = \pi \times D_1 \times N_1$$

$$V_1 = \pi \times D_2 \times N_2$$

$$N_2 / N_1 = D_1 / D_2$$

$$N_2 = (D_1 / D_2) \times N_1$$

なお、 N_1 は D_1 における回転数(rpm)、 N_2 は D_2 における回転数(rpm)、 π は円周率をそれぞれ示す。

上式のように、同じ引出し速度であつても、引出し位置すなわち溶接ワイヤ12の残量によつて巻棒10の回転数が異なる。また、引出し速度が同一であれば、使用終了付近では使用開始付近よりも直径比 (D_1/D_2) の分だけ巻棒10の回

(4)

時を行うタイマー回路28、このタイマー回路28の計時時間を設定する可変時間設定器30、上記パルス信号のパルス周期と上記計時時間とを比較する時間比較回路32、およびこの比較回路32の出力によつて作動する警報回路34などを有する。

次に、上記装置の動作を説明する。

先ず、速度設定器20によつて制御回路18が電動機16を回転させる。これにより、駆動ローラ14が回転し、溶接ワイヤ12を巻棒10から引出す。溶接ワイヤ12が引出されると、巻棒10はその引出し速度に対応して回転し、突起物22も同じく回転する。検出器24が突起物22を検知する毎に、パルス発生器26からは第4図Aに示すようなパルス信号が出力される。このパルス信号の周期 T_1 は突起物22が1回転する時間すなわち巻棒10の1回転する時間となる。

他方、タイマー回路30はパルス発生器26からの同期信号によつて時間計測を開始し、可変時間設定器30によつて設定された時間 T_2 後に計

(6)

時動作を終了する。第4図Dはタイマー回路28の出力信号を示す。

パルス発生器26のパルス信号周期 T_1 とタイマー回路28の計時時間 T_2 は時間比較器32によつて比較され、第4図のAとBに示すように、互いに $T_1 > T_2$ の関係であれば、制御回路18によつて電動機16が駆動され、ワイヤ12は継続して引出される。

しかし、巻枠10の溶接ワイヤ12が残り少なくなつて、第2図にて説明したように引出し位置がD1からD2へ移行すると、巻枠10の回転速度が速くなつて上記周期 T_1 が短くなつてくる。第4図Cはその状態のパルス発生器26の出力波形を示したもので、タイマー回路28の設定時間 T_2 より短くなつて T_3 となつた場合は、比較回路32の信号によつて警報回路34が作動させられる。この場合、警報回路34によつて直ちに電動機16を強制停止させるか、あるいはブザーなどによつて作業者に警告するのみにするか、それともブザーによる警告後一定時間を経たら電動

(7)

機、誤まつて溶接ワイヤ12が不足した状態で溶接が開始されることを防止できるようになる。従つて、溶接が途中で中断することによる溶接欠陥等が発生することも確実に予防できる。さらに、溶接ワイヤの残量は、作業者の注意力や勘に依存せず、確実にかつ正確に把握することができ、安定した溶接を期待できるとともに、作業者の負担も軽減させることができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明にて使用される溶接ワイヤの正面図と側面図、第2図はこの発明の原理を説明するための図、第3図はこの発明による溶接ワイヤの使用量検知装置の一実施例を示す構成図、第4図は第3図の実施例の装置の動作を説明するためのタイミングチャート図である。

各図中同一部材には同一符号を付し、10は巻枠、12は溶接ワイヤ、14は駆動ローラ、16は電動機、18は制御回路、20は速度設定器、22は突起物(回転検出用ストライカ)、24は検出器、26はパルス発生器、28はタイマー回

(9)

路、30は可変時間設定器、32は時間比較回路、34は警報回路、 T_1 、 T_3 は巻枠の回転周期、 T_2 はタイマー回路の計時時間である。

また、制御回路18からタイマー回路28へは、速度設定器20による溶接ワイヤ12の引出し速度の逆数に比例した信号が送られる。例えば、速度設定器20によつて溶接ワイヤ12の引出し速度が増加した場合、第4図Aの周期 T_1 は短くなるが、この信号によつて速度の増加分だけ第4図Bの時間 T_2 が短くなるように作用する。逆に、速度を減少させた場合は長くなつて常に T_1 と T_2 の相対関係は同一に維持される。

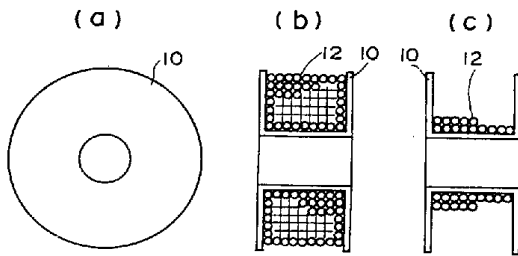
以上のように、この発明による溶接ワイヤの使用量検知装置は、溶接ワイヤの使用量を巻枠の回転数によつて簡単に検出することができるととも

(8)

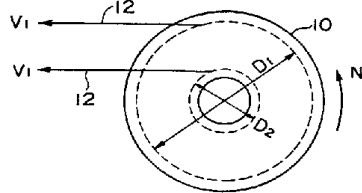
路、30は可変時間設定回路、32は時間比較回路、34は警報回路、 T_1 、 T_3 は巻枠の回転周期、 T_2 はタイマー回路の計時時間である。

代理人 弁理士 葛野 信一
(ほか一名)

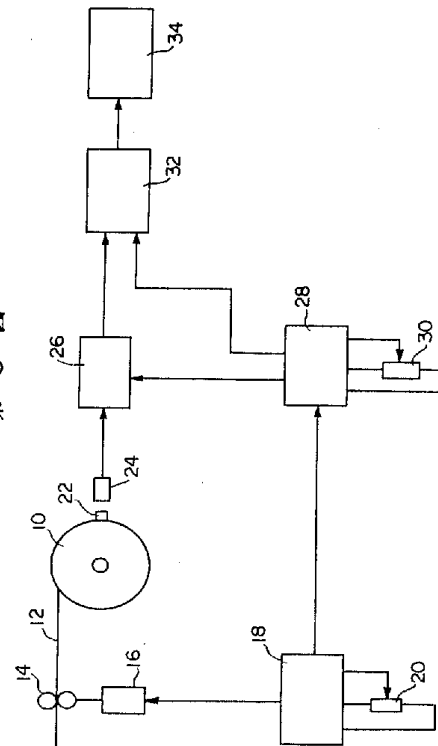
第 1 図



第 2 図



第 3 図

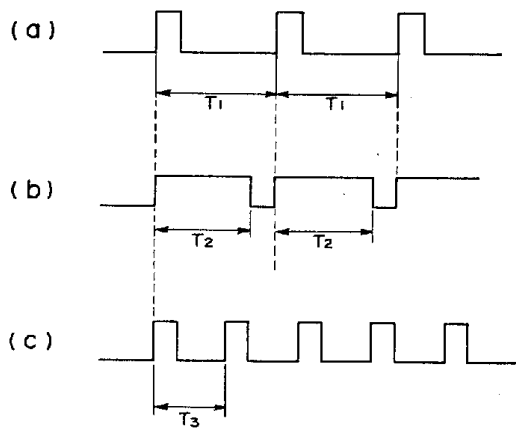


手 続 補 正 書 (自発)
58 5 16
昭和 年 月 日



特 許 庁 長 官 殿

第 4 図



1. 事件の表示 特願昭 57-216226号

2. 発 明 の 名 称 溶接ワイヤの使用儘検知装置

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人
住 所 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号
名 称 (601) 三菱電機株式会社
代表者 片 山 仁 八 郎

4. 代 理 人
住 所 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号
三菱電機株式会社内

氏 名 (6690) 弁理士 葛 野 信
(7375) 弁理士 大 岩 増 雄



(1)

(連絡先 03(213)3421特許部)

5. 補正の対象

明細書の発明の詳細な説明の欄。

6. 補正の内容

補 正 箇 所	補 正 後 の 内 容
5頁1行 「遅くなる」	速くなる
6頁18行 「タイマー回路30」	タイマー回路28

以上

(2)

PAT-NO: JP359105509A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 59105509 A
TITLE: USED AMOUNT DETECTOR FOR
WELDING WIRE
PUBN-DATE: June 18, 1984

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
HIRAMATSU, MASAKI	

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
MITSUBISHI ELECTRIC CORP	N/A

APPL-NO: JP57216226
APPL-DATE: December 9, 1982

INT-CL (IPC): G01B021/06 , G01B007/04

US-CL-CURRENT: 324/76.11

ABSTRACT:

PURPOSE: To stabilize welding accurately and positively capturing residue by detecting used amount of a welding wire from revolutions of a winding frame.

CONSTITUTION: A pulse generator 26 outputs a pulse signal each time a detector 24 detects a projection 22, where the cycle T1 is the time for

one rotation of a winding frame 60. A timer circuit 28 starts to measure time by a synchronous signal of the generator 26 and completes the operation of a time piece after the set time T2 of a variable time setting device 30. A time comparator 32 compares the cycle T1 and the time T2 and a welding wire 12 is continuously pulled out when $T1 > T2$. When the relation turns to $T1 \leq T2$, a signal of the circuit 32 activates an alarm circuits 34 to forcibly stop a motor 16 and alarming or the like is performed with a buzzer. The time T2 can be adjusted freely with the setting device 30 while the residue of the wire 12 for actuating a circuit 34 can be set as desired thereby accurate and positive sensing of the residue and the used amount of the wire 12 can be performed.

COPYRIGHT: (C)1984,JPO&Japio